



神奈川畜産情報

発行所
 神奈川県畜産会
 横浜市磯子区西町14-3
 畜産センター内
 電話 045(761)4191
 FAX 045(759)1162
 発行人
 大川 良 一

隔月1回(1日)発行

〔神奈川畜産情報(平成18年1月号以降)はホームページでもご覧になれます〕

神奈川県畜産会のホームページ

「かながわ畜産ひろば」(<http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm>)

(公社)中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

がんばる!畜産!4

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!
 映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!
 配信中的内容:作業・管理の外部委託で規模拡大をめざす!畜舎たちの挑戦!/鶏の卵が食卓に届くまで/他

4スマートフォンからはこちら
 ▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

(公社)中央畜産会 経営支援部(情報) TEL.03-6206-0846

謹賀新年



(一社)神奈川県畜産会
会長 大川 良一

令和4年の新春を迎え、皆様のご健勝を心からお慶び申し上げます。

まずは、これまで昨年の畜産会に対する皆様より寄せられましたご厚情に深く感謝し、本年も変らぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。畜産会の会長に就任し早1年半が過ぎ、ますます責任の重さを痛感しており、本県の畜産の発展のために微力ながら頑張っていく所存でございますので、皆様のご支援を心からお願いいたします。

さて、昨年はなんと申しましたが、県内養豚場での豚熱の発生が本県畜産を震撼させ、養豚農家にとって衝撃的な出来事だったのでないでしょうか。家畜伝染病の侵入により、これまで築き上げてきた経営が一瞬にして失う怖さを身にしみて感じた次第です。被害にあわれました農家に対して心よりお見舞い申し上げます。被害農家は経営再建に向けて頑張っていると伺っており、関係機関からなる経営再建検討チームも組織され、本会もチームの一員として再建のお手伝いができればと思っております。1日も早い経営再建が図られますことを心からお祈り申し上げます。

ところで、我々を翻弄しつづけている新型コロナウイルス感染症は、昨年東京では1月7日に2回目となる緊急事態宣言が実施された後、4月23日に第3回目となる緊急事態宣言が发出されると、何度となく措置期間の延長や措置区域が変更され、最終的には9月末まで緊急事態措置期間が延長されました。なんと1年の内2/3日間私達の行動に何らかの制限がかかっておりました。この間、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、新型コロナウイルスの拡大に呼応するように感染者数は大幅に減少していきました。しかしながら、オミクロン株などの変異株が確認されるなど、世界的なパンデミックの収束は程遠いとのWHOは見解を示しております。いずれにしても、アフターコロナの世界では、「新たな生活様式を受け入れていかざるを得ない」といわれており、あらゆる分野で大きな転換期を迎えるといわれております。こうした転換期に、本県の畜産にも何らかの変化・影響をもたらすのではないのでしょうか。大消費地を身近に抱える立地特性を活かし発展してきた本県の畜産は、安価な輸入畜産物や国内他産地の畜産物との競争に對して、安全・安心な信頼される畜産物を供給し、地域との交流を大切にして、地域に根ざした畜産を目指していくことを基軸として、様々なブランド戦略や販売戦略を講じてまいりました。このことは、アフターコロナにおいても変わることはないかと確信しております。本県の畜産は、戸数、生産量とも減少傾向にあるものの、生産者個々の力には限りあ

りますが、アフターコロナにおいて社会環境・消費者意識の変化を捉えながら、かながわ畜産ブランド推進協議会のもと生産者・行政・団体が一丸となって本県畜産物の共通したブランド戦略等を実践していくことで、大きな力となり本県畜産の発展に繋がっていくと思っております。今年もこうした考えのもと、畜産会としては持てる力をフルに活用し全力で取り組んでいく所存であります。

また、コロナ禍に加え、畜産にとっての最も懸念する事項は、何といたっても豚熱や高病原性鳥インフルザといった家畜の伝染病の脅威でしょう。豚熱は、幸いにも県内養豚経営で続発はないものの、他県の養豚経営での発生も続発しており、県内の野生のししで確認されるなど、依然として、予断の許さない状況にあるといえます。また、高病原性鳥インフルザは、今年も発生が確認される状況が続いており、養鶏農場にとつては、息が付けられない日々が続いております。万全の防疫体制を敷いていることと存じますが、今一度、徹底した消毒と小動物の出入遮断など改めて再点検していただくようお願いいたします。

いずれにいたしましても、本県畜産を取り巻く状況は厳しく、畜産会といたしましても、この難局を乗り越えるため全ての関係者と認識を共有し、全力で取り組んで行く所存であります。皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。令和4年の年頭にあたり、本県畜産と皆様にとつて、より一層の飛躍の1年となることをご祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

全国優良畜産経営管理技術発表会

(第61回農林水産祭参加行事)での快挙!

—祝! (株)小野ファームが最優秀・農林水産大臣賞を受賞—



本会が経営コンサルを実施している横浜市内の乳肉複合経営(株)小野ファームを11月26日(公社)中央畜産会が主催する令和3年度全国優良畜産経営管理技術発表会に推薦したところ、書類選考後、全国から選出された8事例のうち、本県事例が最優秀・農林水産大臣賞に選出される快挙に至った。(株)小野ファームの受賞内容の概要は後ろページに掲載。中央畜産会のHPでも当日の発表をYouTubeで配信。写真は表彰式の様子(株)小野ファームは最前列向かって右から2人目(浩二さん)と3人目(利和さん)

新年あけましておめでとうございます。

昨年は丑年ということで、主役を務めた牛(またはそれに近い種)のみならず、コロナ禍の中での主役で、なかなか実力を発揮する機会がなかったかもしれません。1年間大変お疲れさまでした。今年の主役の寅は、動物園以外ほとんどいない(し、そもそも家畜ではない)ので、干支に関して畜産界隈がにぎやかになる年が次にやってくるのは、4年後の令和8年(2026年)の午年になるでしょうか。

家保だより

さて、年が明けるとやってくるのは定期報告の季節です。毎年、1月下旬に家畜の飼養者のみなさまに向けて家保からお送りする様式に、2月1日時点の家畜の飼養状況を記入して報告していただいています。何に使われているかご存じですか?定期報告は、口蹄疫・高病原性鳥インフルエンザ・豚熱などの家畜伝染病の発生予防や発生時における迅速なまん延防止対策を図るため、該当する動物種を1頭(羽)でも飼育している場合は、愛玩目的の方も含め報告をお願いしています。つまり、現在の飼育状況及び衛生管理状況を記載していただくことで、「もしも…」のことが起こった時に対象の家畜を飼養してい

るすべての方に、すぐに連絡などの対応がとれるように準備しておくための元のデータになる大切なものなのです。「団体などからの似たような報告書の提出と重なる」「同じような内容を毎年報告するのは正直面倒だ」というお声をよく聞きます。きちんと提出していただいている飼養者の方にはとても心苦しいのですが、家保業務の基本になるものですので、引き続きご協力をお願いいたします。また、ご近所で愛玩も含めて家畜を飼育されており、定期報告の存在をご存じない方がいらっしやいましたら、そっと教えていただけると非常に助かります(ホームページや県のたより2月号にも掲載予定です)。ちなみに対

象家畜は、牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥です。と、ここまで書いてみて、干支には定期報告の対象家畜が5種類もいることに気づきました。架空ありの12種のうち5種、やはり家畜は大昔から人間の生活に欠かせない存在だったんですね。これからも彼らと良い関係でいるために、家保も引き続きお手伝いさせていただきますので、本年もどうぞよろしくお願いたします。(湘南家保 石原凡子)

鳥インフルエンザに係る県の緊急対策について

令和3年11月10日、秋田県横手市の養鶏場で今シーズン最初の高病原性鳥インフルエンザ(以下、鳥フル)が発生しました。その後、令和3年12月12日までに8県9事例9農場で発生があり、家きん約46・9万羽が殺処分される等、発生が継続しており、過去最大規模の流行となった昨シーズンと同様の流行が危惧されています。県では、養鶏場等に対して、飼養衛生管理強化の取組みを支援する緊急対策事業を実施しており、この記事ではその内容についてご紹介します。

1. 消毒の徹底…県では、養鶏場等に対して、シーズン中、農場内の消毒の徹底を呼び掛けており、JAグループの協力を得て、消石灰を配布しています。また、今後、防疫対策セット(長靴、消毒槽)の配布を予定しています。これらを活用し、引き続き定期的な農場・畜舎周辺の消毒、出入りの際の消毒や長靴の履き替えの徹底をお願いします。なお、消石灰に関しては、家保等からご連絡しているとおり、期日までに指定の農協等での引取りにご協力をお願いします。

2. 野生動物の侵入防止対策…鶏舎及び堆肥舎の防鳥ネットの補修に対する補助事業を、補助率2分の1以内で実施しています。国の補助事業では対象とならない部分的なネットの補修(修繕)が可能ですので、積極的に活用いただき、

野鳥等が畜舎内等に侵入することのないよう対策をお願いします。ご希望の方は、事業の事務局である神奈川県畜産会までご連絡ください。また、殺鼠剤の配布を行っています。ネズミはウイルスを体表につけたまま、畜舎内外を行動します。ネズミは生理的に水をたくさん

飲むため、水場が屋外にある場合は、そこで野鳥との接点が生まれ、鳥フルのウイルスが畜舎内に持ち込まれるリスクが高くなります。殺鼠剤等の活用や、ネズミの隠れる場所をなくすための整理整頓に取組み、ネズミを減らすための対策を実施しましょう。

令和4年のゴールデンウィークまでは、鳥フルのシーズンとなります。シーズン中は特に農場のバイオセキュリティの水準を高めて、ウイルスの侵入を防ぎましょう。

(神奈川県環境農政局農政部
畜産課安全管理グループ 奥田 遥)



鳥フル等の県の対策・支援(堆肥舎の防鳥ネットの補修)



鳥フル等の県の対策・支援(殺鼠剤の配布)

令和3年度全国優良畜産経営管理技術発表会 都市の中での乳肉複合による多角経営

「ゲノミック評価の活用による肉用牛生産の取組み」
株式会社小野ファーム肉用牛一貫・酪農経営・横浜市戸塚区



(写真1:小野浩二さん)

(表1:経営の推移)

年次	作目構成	飼養頭数	経営活動の内容
昭和22年	酪農	搾乳牛1頭	小野麻太郎(祖父)が酪農を開始
昭和37年	酪農	搾乳牛37頭	有限会社上倉田第一牧場設立
昭和54年	酪農 肉用牛	搾乳牛45頭 肥育牛120頭	牛乳生産調整が始まり本格的に乳肉複合経営に転換 交雑種肥育開始
平成8年	酪農 肉用牛	搾乳牛40頭 肥育牛300頭	地域住民に和牛の美味しさを知ってもらうため 牧場直営焼肉店、「演皇」をオープン
平成12年	酪農 肉用牛	搾乳牛40頭 肥育牛300頭	乳製品加工施設、「横濱アイス工房」オープン 地域との結びつきの拠点
平成17年	酪農 肉用牛	搾乳牛40頭 肥育牛360頭	消費者に信頼される牛肉の安定供給を図るため県内肥育生産者 とともに銘柄牛ブランド「横濱ビーフ推進協議会」設立
平成27年	酪農 肉用牛	搾乳牛30頭 肥育牛370頭 繁殖牛4頭	横濱ビーフ推進協議会会長に就任 繁殖一貫生産に向けて繁殖牛導入開始 加工部門のアイスクリーム、ハラル認証取得
平成28年	酪農 肉用牛	搾乳牛30頭 肥育牛375頭 繁殖牛15頭	分娩監視システム導入 繁殖増頭事業の活用 神奈川県肉用牛経営者協議会副会長に就任 酪農部門で神奈川県産の乳質表彰で2年連続最優秀賞受賞
平成30年	酪農 肉用牛	搾乳牛30頭 肥育牛350頭 繁殖牛40頭	ゲノミック評価開始 低コストハウスを建築し、自家産和子牛哺育開始 加工部門でアイスクリーム工場建設 株式会社小野ファームに組織変更
令和2年	酪農 肉用牛	搾乳牛35頭 肥育牛314頭 繁殖牛71頭	発情発見システム導入 加工部門のアイスクリームが「かながわブランド」に認定される

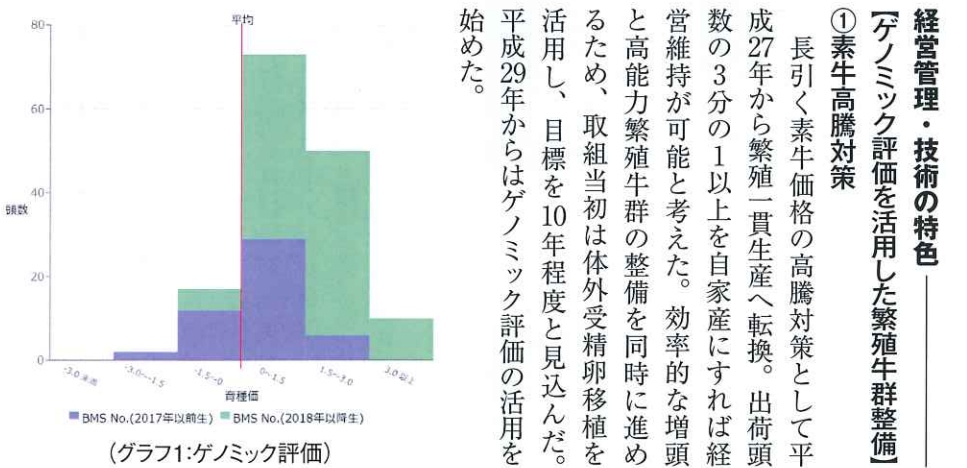
経営・活動の推移

「時代を先取りした先進的経営」

横浜市の南西部に位置する戸塚区のJR戸塚駅から横浜市南西部に位置する戸塚区のJR戸塚駅から1.5kmという市街化区域の住宅地の中心部に立地する小野ファームは、昭和22年に乳牛1頭の酪農から始まった。都市化の中で生き残るため自らの経営が置かれている状況を分析し、その時々最先進的な試みに果敢にチャレンジし、経営上の課題を乗り越え成功に繋がっている。例えば早くから法人化(昭和37年)し昭和54年には牛乳生産調整を契機に経営形態を乳肉複合経営に切り替えた。また、消費地を身近に抱える立地特性を活かし、丹精込めて生産した畜産物を地域の消費者に食べてほしい、「地元畜産物は地元産」という考えのもと、平成8年には牧場直営焼肉店を開設、平成12年には乳製品加工販売をはじめると、六次産業化にも早くから取り組んできた。平成17年には県内肥育農家をまとめ、念願の和牛のブランド化を図り、県内肥育生産者とともに横濱ビーフ推進協議会を立ち上げた。環境面でも住宅地が近接していることから排泄物処理には特に気を使い、堆肥の流通が滞らないよう耕種農家の求めるニーズにあった良質

経営管理・技術の特色

な堆肥を供給することが重要と考え、良質完熟堆肥の生産に取り組んだ。さらに、長引く素牛価格の高騰に対しては、肥育経営から繁殖一貫生産への転換に取り組んだ。こうした時代を先取りした取り組みに挑戦しながら経営を維持・発展させ、現在では酪農部門、肥育部門、堆肥部門、加工販売部門と多岐にわたる、それぞれの部門において有機的な連携が図られる多角的経営となっている。



①素牛高騰対策

長引く素牛価格の高騰対策として平成27年から繁殖一貫生産へ転換。出荷頭数の3分の1以上を自家産にすれば経営維持が可能と考えた。効率的な増頭と高能力繁殖牛群の整備を同時に進めるため、取組当初は体外受精卵移植を活用し、目標を10年程度と見込んだ。平成29年からはゲノミック評価の活用を始めた。

②肉用牛ゲノミック評価の活用

ゲノミック評価の活用により子牛の段階で能力が把握できるため繁殖計画を効率よく立てることができている。現在、繁殖候補牛の交配にはゲノミック評価値をリアルタイムで確認できるGEVA(ジーバ)を利用して。また、生まれた雌子牛もすぐにゲノミック評価を実施し保留牛の選抜を行っている。

③取組の効果

素畜費低減のため出荷頭数の約3割を自家産で賄うという当初の目標を5年間で達成できた。これにより導入牛購入費用80万円に対して自家産牛の育成費用は50万円と大幅なコスト低減が実現できている。酪農部門の乳牛への受精卵移植は、子牛の生み落とし評価額を更に低く抑えられて。また、乳牛から生まれた子牛の生時体重の方が繁殖和牛の産子より大きく、最終的に枝肉重量で3050kgの差となり販売時での大きなメリットとなっている。



(写真3:検卵)



(写真2:採卵)

【繁殖を支える新技術(IoT)の活用】

分娩事故防止にモバイル牛温恵を導入したことで確実な分娩立ち合いにより事故が無くなった。従業員も24時間見回りから解放され精神的にも楽になった。更にクラウド牛群管理システムを導入し注意すべき個体を従業員全員が把握でき発情の見逃しが無くなった。これらのシステムとの繁殖状況、疾病治療情報の共有を頻繁に行うことで繁殖牛群の管理が適正に行われている。



(写真4:牛温恵)

【高い肥育成績の維持と高品質化】

黒毛和種去勢の枝肉格付4等級以上の上物率は98%、うち5等級率が83%と高水準を維持している。格付成績はもとよりブランド牛維持のため美味しい牛肉生産を心掛け、地元から排出される食品製造副産物(トウフ粕、生パスタ、ビール粕)を積極的に活用した低コストで嗜好性の高い独自の自家配合飼料によりくちだけの良い風味と甘みのある高品質牛肉生産を行っている。県畜産技術センターの協力により食肉脂質測定装置を用いて定期的に年間40頭程度オ

レイン酸測定を行っている。フィードバックされる数値は血統選定、飼料給与の見直しの参考に利用している。今後は脂肪酸のゲノミック評価にも取り組んでいく。

【ブランド化と地産地消の推進】

地域の住民に地元で生産された畜産物を味わってもらうため、平成8年には牧場直営の焼肉店「濱皇」を、また4年後の平成12年には乳製品加工販売施設「横濱アイス工房」を開店。地域で安全・安心で美味しい牛肉・アイスクリームの直接販売を行うことで都市の中での畜産の展開、ふれあいの拠点として機能している。



(写真5:未利用資源の活用)



(写真6:アイス工場)

その後もつと多くの消費者にアイスクリームを提供したいと考え、卸売り販売の比率を

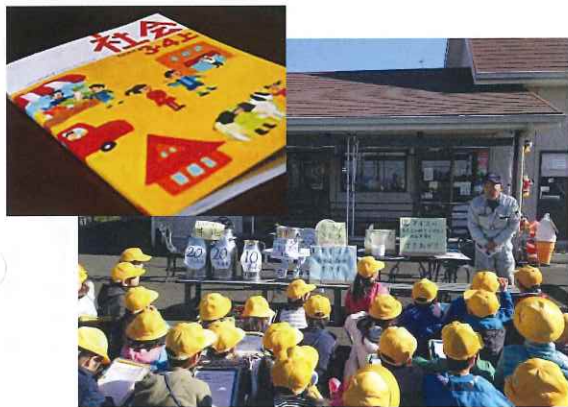
上げるため平成30年にはジェラート工場を建設。見学コースも設置し、HACCP認証、FSSC22000を取得しHALAL認証されたハラル専用ラインも設置した。

【地域に対する貢献】

地域環境との調和と地域農業活性化のために生産と畜産物の販売活動を通じて、地域の食文化への理解醸成(食育)、地域イベントへの参加、小学生の課外授業等の受入れなどに積極的に取り組むなど、地域を代表する畜産経営として、CSRに取り組んでいる。

【地域の食育等への貢献】

横浜市が取り組んでいる市民農園事業と連携し、市民農園への堆肥の供給と農園利用者の牧場見学会などの受入れにも積極的に取り組み、市民との交流



(写真7:横浜市 3・4年社会科教科書) (写真8:課外授業)

を図り食と農の相互理解に貢献している。また、学校給食へのアイスクリーム提供や生徒の見学も受け入れている。横浜市の小学3・4年生の社会科の教科書に18ページにわたり小野ファームが掲載されていることもあり市内の小学校からの見学が多く、月に1~2回の見学を受け入れている。

【今後の経営計画】

現在、繁殖牛を肥育牛舎と搾乳牛舎で管理しているため繁殖牛舎を新設し効率化を図る。現在の繁殖牛から能力の高い30頭を選抜し、選抜した高能力繁殖牛群は受精卵生産を中心に行う。生産した受精卵を酪農家に雌雄判別雄を提供し、酪農家からヌレ子で引き上げることで肥育素牛を確保する。この取組については現在、県内酪農家3件と契約を結びスタートしたばかり。

酪農部門は引き続き良質牛乳生産を継続することで加工部門に新鮮な原料乳を供給し、また、肉用牛部門に借り腹を提供し体外受精卵による安定的な和子牛生産を図る。堆肥部門では高齢化・人手不足に悩む耕種農家のニーズを捉え、圃場までの運搬とマニユアスプレッターでの散布サービスを考えている。

加工部門では県産チーズのニーズが高まっていることからアイスクリームの卸売り販売ルートを活かしフレッシュチーズの製造販売に着手していく。

牛マルキン

(肉用牛肥育経営安定交付金制度)

交付状況

令和三年七月～九月の交付金確定単

価(肥育牛一頭当たり)

○肉専用種

七月 交付なし

八月

(概算) 五八、〇三三・二円

(確定) 五九、九〇四・〇円

九月

(精算) 二五、〇八二・二円

○交雑種

七月

(概算) 三六、四九八・九円

(精算) 四〇、一四〇・九円

八月

(概算) 六〇、〇一六・八円

(精算) 六一、五一五・〇円

九月

(精算) 二〇、五八九・三円

○乳用種

七月

(概算) 二九、九五七・七円

(確定) 三三、五一〇・六円

八月

(概算) 二七、九一八・三円

(確定) 二九、〇二四・五円

九月

(精算) 三五、三三七・七円

令和三年十月の交付金概算払単価(肥育牛一頭当たり)

○肉専用種

(概算) 交付なし

○交雑種

(概算) 一三、二二五・〇円

○乳用種

(概算) 一七、七七八・〇円

要件審査申請書等の提出について

平成三十年十二月三十日に開始された牛マルキン制度の第一業務対象年間が令和四年三月三十一日で終了し、令和四

地方競馬の収益金は畜産振興に役立てられています。

川崎競馬開催日

1月 1日(土)～1月4日(火)

1月 6日(木)～1月7日(金)

1月31日(月)～2月4日(金)

年四月一日より第二業務対象年間が開始されます。本制度に加入するためには三年毎の業務対象年間開始前に要件審査申請書を(独)農畜産業振興機構に提出し、生産者登録をしなければな

ビツガリ
ひそか
はちみつ
統計改ざんアイウエオ
密接も密議もダメよ蜜は良し

畜産関係の皆様方は自らが生産する乳肉卵そして蜂蜜をお上がりになつて免疫力を高め、コロナウイルス禍に巻き込まれることもなく、新年をお迎えでしょうか。

一昨年を表徴する漢字に選ばれたのは「密」です。コロナ感染を抑えるために意識した、密接、密集、密閉の「密」でしょう

ね。この「密」はびつたりとひつついて隙間が無いことでしょうか、秘密、密会、

密議の「密」は人にわからないように隠して、ひそかに隠れて等、過去八年間の安倍政治を物語っているようです。国会を開かず、モリ、カケ、

桜の疑惑にまともな答えず、公文書改ざん問題で自死した方にも知らんぷり。そしてまた出た、統計書の書き換えも八年前からです。

アベノミクスのイカサマはウヤムヤだらけの

りません。

既に制度加入継続生産者の皆様には申請書類が届いていますので、一月末までに必ず提出をお願いします。(畜産会 倉迫)

エセ統計

置き換え数字で嘘語る

隠して

切り取り

黒く塗り

消して

コッソリ書き換えた

こうすりゃアベノミクスのGDP

(国内総生産)はプラスに見えるのさ。

どんなもんだい。俺はやれとは言つてない。陰でコッソリ甘い蜜。こん

な奴に蜂蜜は飲ませ

たくないね。養蜂家

の方々の新年は如何

でしょうか。近年の

気候変動、季節の激

変にさぞご苦労なさっていることと

存じます。でも、野外での花を求め

ての生活はコロナウイルス感染の恐

れは少ないよね。

年末の有馬記念は当たりましたか。

「密」の字から「蜜」を想い、小学

生の言ったことを思い出しました。

「エッ！犬と猫は家畜でなくて競馬の

馬も蜜蜂も家畜だって！」今年の漢

字は「蜜」かな。(忠九朗)

新むらすずめ

な奴に蜂蜜は飲ませ

たくないね。養蜂家

の方々の新年は如何

でしょうか。近年の

気候変動、季節の激

変にさぞご苦労なさっていることと

存じます。でも、野外での花を求め

ての生活はコロナウイルス感染の恐

れは少ないよね。

年末の有馬記念は当たりましたか。

「密」の字から「蜜」を想い、小学

生の言ったことを思い出しました。

「エッ！犬と猫は家畜でなくて競馬の

馬も蜜蜂も家畜だって！」今年の漢

字は「蜜」かな。(忠九朗)